



取付説明書

TOYOTA ALTEZZA
SXE10

BLITZ

(1) 安全上のご注意

はじめに

- ・ この製品についての説明には、製品を使用する際と、自動車に装着する際の注意事項が詳しく記載してあります。良くお読みになって、正しくお使いください。
- ・ 装着車両に、この製品システム以外の製品装着や改造を行った場合に発生する不具合に関して、弊社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ お客様ご本人または第三者の方が、この製品および付属品の誤った使用や、その使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた障害については、弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ この製品および付属品は、改良のため予告なく変更する事があります。
- ・ キットの構成部品はパーツリストに記載してあります。取り付け前に異品・欠品の無いことを確認してください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される危険の状況を示します。

- ・ 換気の良い場所で取り付け作業を行ってください。
換気の悪い場所で作業を行うと、爆発・火災の原因となります。
- ・ バッテリーのマイナス端子をはずしてから、取り付け作業を行ってください。
配線のショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ コネクタを外す場合、ハーネスを引っ張らず、必ずコネクタを持って取り外してください。
ショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品に異音・異臭などの異常が生じた場合には、製品の使用をすみやかに中止し、販売店または弊社までお問い合わせください。
そのまま使用すると、感電や火災、電装部品の破損の原因となります。
- ・ この製品の取り付け時に、エンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないよう注意してください。
ショートなどによる火災、電装部品・エンジン・車両の破損の原因となります。
- ・ 部品交換は自動車が不安定な状態で作業すると危険です。必ず自動車作業専用リフトを使用して、安全に作業してください。
【二柱式リフトをお勧めします】
やむをえずガレージジャッキを使用する場合は、必ずリジットラック(馬、安全スタンド)を併用して安全に作業してください。車載ジャッキでの作業は危険なので絶対に行わないでください。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が軽傷また中程度の傷害を負う可能性が想定される危険な状況および物質損害の発生のみが想定される状況を示します。

- ・ この製品の取り付けは、必ず専門業者に依頼してください。
取り付けには専門の知識と技術が必要です。
- ・ この製品を装着前に落下させたり、装着時に無理な力を加えないでください。
作動不良や空気漏れの原因になる場合があります。
- ・ この製品の加工・分解・改造は行わないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品の取扱いは慎重に行ってください。落としたり強いショックを与えないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ エンジンルーム内の温度が下がってから、作業をはじめてください。
エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。
- ・ 定期的に点検を実施し、十分に注意してご使用ください。
この製品は耐久性を考慮して、厳選された材料を使用し、厳重な社内品質管理のもとに製造されていますが、車両の使用条件などにより、耐久性が落ちたりする事があります。
- ・ 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損・紛失しないように大切に保管してください。
当社は取り付け作業による物的損害の責任を負うことはできませんので、慎重に作業を行ってください。
- ・ ボルト・ナット類は、適当な工具で確実に締め付けてください。
必要以上に締め付けを行うと、ボルトのネジ部が破損します。

重要事項

- ・ この製品はノーマル車輛を基準に製作されています。
ノーマル車輛以外に取り付けた場合は、製品の機能・性能及び安全性・耐久性について保証いたしかねます。
- ・ 製品装着時は、異物が混入しないよう、十分に注意をしてください。
異物等が混入すると最悪の場合エンジン破損の原因になる場合があります。
- ・ 純正部品の取り付け、取り外しの作業はメーカー発行の整備要領書をよく読んでからおこなってください。
整備要領書がお手元にはない場合はメーカーにてご購入ください。
- ・ 走行前には、オイル・冷却水・排気ガス等の漏れがないか点検を行ってください。
漏れのある状態での走行は、車輛火災やエンジン破損等の恐れがあり危険です。
- ・ このキットはハイオクガソリン指定となります。
レギュラーガソリンを使用しますとノッキング等を発生させ、最悪の場合エンジン破損の原因になる場合がありますので、必ずハイオクガソリンを使用してください。
燃料タンクのカソリン入れ換え作業は危険を伴いますので、特に火気に注意してください。
- ・ 本キットを取り付ける際は必ず点火プラグを熱価の高いものに交換してください。
- ・ 本キット内の、58フューエルコントローラは、絶対に分解・改造はしないでください。
分解・改造した場合、燃調(セッティング)が変わってしまい、最悪の場合はエンジン破損の原因となります。

【作業の方へお願い】

作業が終了しましたら、本取扱説明書は必ずお客様に返却してください。

作業にとりかかる前に必ず下記の点を点検してください。

純正のホースやバンド等の部品に変形、割れ、ひび等の劣化が生じていたら純正品の新品に交換してください。

(2) 適合車種

車 名: TOYOTA ALTEZZA

型 式: SXE10 MT車

年 式: 1998年10月～2001年5月

製品番号: 10159

型 式: SXE10 MT車

年 式: 2001年5月～

製品番号: 10159

型 式: SXE10 AT車

年 式: 1998年10月～2001年5月

製品番号: 10160









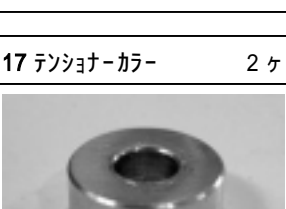

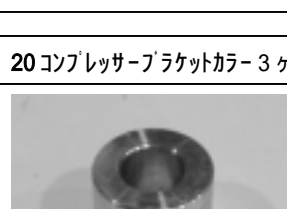
型 式: SXE10 AT車

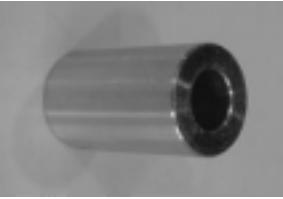





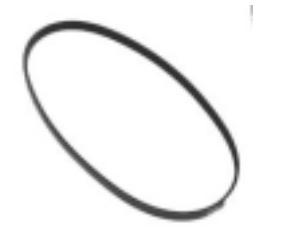













年 式: 2001年5月～

製品番号: 10160

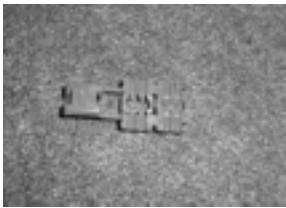







製品名称: BLITZ COMPRESSOR SYSTEM

(3) パーツリスト

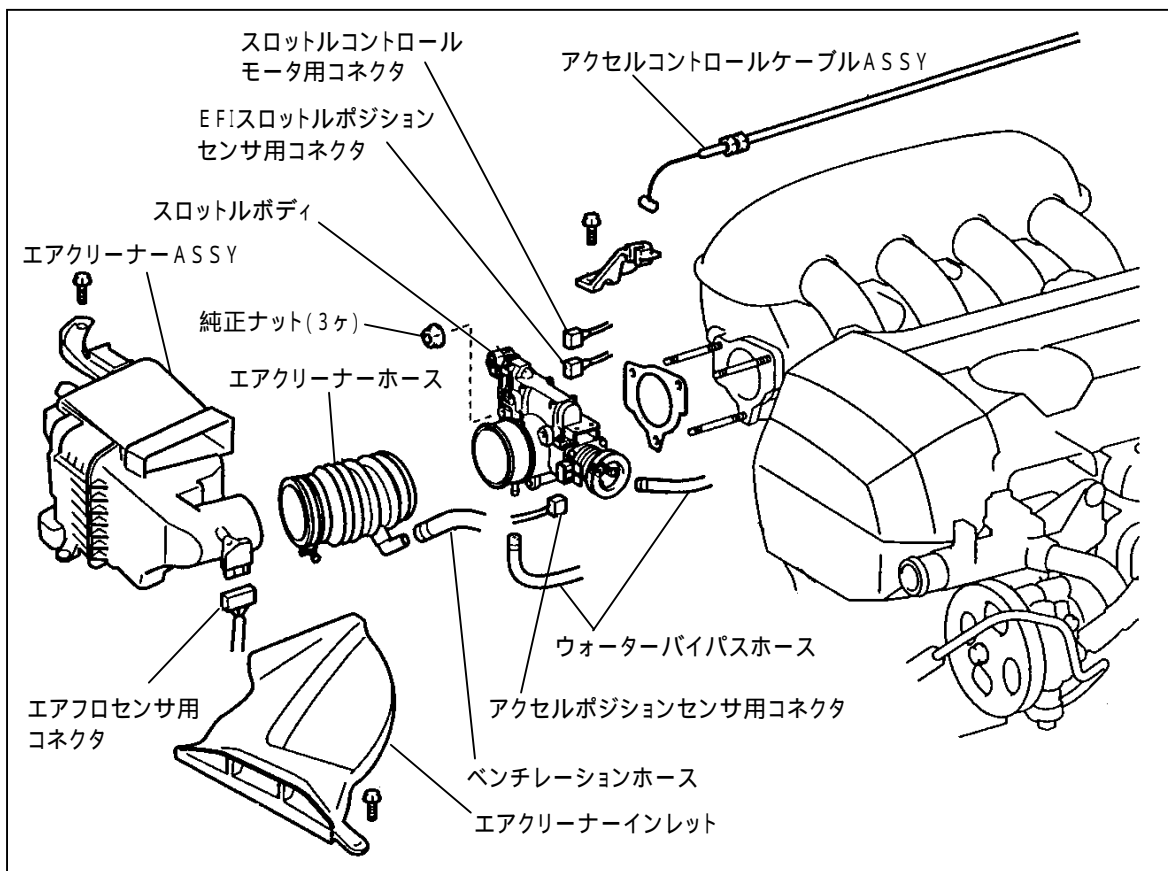
<p>1 コンプレッサー本体 1ヶ</p> 	<p>2 インレットチャンバー 1ヶ</p> 	<p>3 アウトレットチャンバー 1ヶ</p> 	<p>4 ガasket 2ヶ</p> 
<p>5 コンプレッサー-ブラケット A 1ヶ</p> 	<p>6 コンプレッサー-ブラケット B 1ヶ</p> 	<p>7 コンプレッサー-ブラケット C 1ヶ</p> 	<p>8 コンプレッサー-ステー 1ヶ</p> 
<p>9 テンショナー-ブラケット A 1ヶ</p> 	<p>10 テンショナー-ブラケット B 1ヶ</p> 	<p>11 テンショナー-ブラケット C 1ヶ</p> 	<p>12 テンショナー-ブラケット D 1ヶ</p> 
<p>13 テンショナー-ボルト A 1ヶ</p> 	<p>14 テンショナー-ボルト B 1ヶ</p> 	<p>15 オルタネーター-プーリー 1ヶ</p> 	<p>16 テンショナー-プーリー 1ヶ</p> 
<p>17 テンショナー-カラー 2ヶ</p> 	<p>18 オルタネーター-ブラケット 1ヶ</p> 	<p>19 六角カラー 1ヶ</p> 	<p>20 コンプレッサー-ブラケットカラー 3ヶ</p> 
<p>22- 12 h=10mm</p>			<p>20- 10 h=15mm</p>

21 テンションブラケットカラー 2ヶ	22 オルタネーターカラー 1ヶ	23 オルタネーターブラケットカラー 2ヶ	24 インテークマニホールドステー 1ヶ
			
18- 10 h=33.5mm	20- 8 h=8mm	16- 6 h=6mm	
25 レベルゲージガイドステー 1ヶ	26 エアクリナーステー 1ヶ	27 Vベルト 1ヶ	28 70パイプ 1ヶ
			
29 60パイプ 1ヶ	30 異型シリコン 80-70 2ヶ	31 異型シリコン 70-60 1ヶ	32 シリコンホース 60 1ヶ
			
33 ホースバンド L 2ヶ	34 ホースバンド M 3ヶ	35 ホースバンド S 3ヶ	36 ニップル 10-14 1ヶ
			
37 9オイルホース 1ヶ	38 クランプ小 2ヶ	39L 型ニップル 1ヶ	40 6シリコンチューブ 1ヶ
			

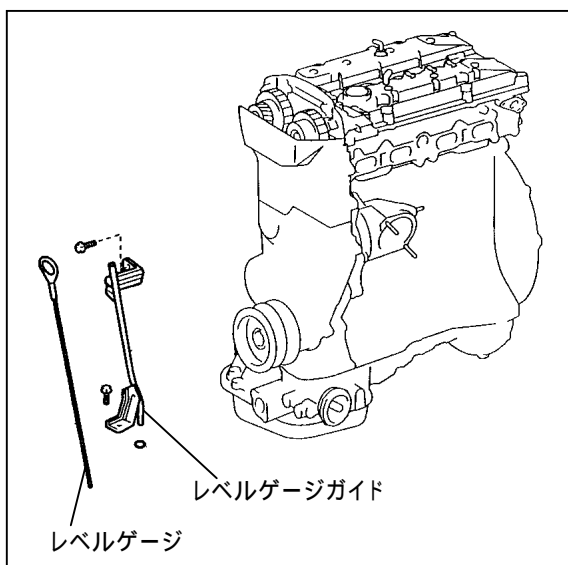
41 クラッチ用スイッチ 1ヶ	42 ハーネス 1ヶ	43 レギュレーター 1ヶ	44 コンプレッサープレート 1ヶ
			
45 クリーナー本体 1ヶ	46 クリーナー本体用バンド 1ヶ	47 クリーナーアダプタ 1ヶ	48 エアフロアダプタ 1ヶ
			
49 整流板 1ヶ	50 エアフロカー 2ヶ	51 クリーナー用M6ボルトL 1ヶ	52 クリーナー用M6ボルトS 3ヶ
			
53 クリーナー用M6ナット 4ヶ	54 クリーナー用M4ボルト 2ヶ	55 コルゲートチューブ細 1ヶ	56 タイラップL 10ヶ
			
57 タイラップS 10ヶ	58 フューエルコントローラー 1ヶ	59 回転信号アダプター 1ヶ	60 キボシ・スリーブセット 2ヶ
			

61 エレクトロタップ 13ヶ	62 8オイルホース 1ヶ	63 コルゲートチューブ太 1ヶ	64 リブ付きプーリー 1ヶ
	 AT車のみ	 AT車のみ	
65 3ゴムキャップ 1ヶ	66 ハイオクステッカー 2ヶ	67 巻込注意ステッカー 2ヶ	68 取扱説明書 1ヶ
			
a フランジボルト M6×16 8ヶ	b フランジボルト M8×20 1ヶ	c フランジボルト M8×30 1ヶ	d キャップボルト M10×15 1ヶ
e フランジボルト M10×25 1ヶ	f フランジボルト M10×35 5ヶ	g フランジボルト M10×40 1ヶ	h 六角ボルト M10×45 1ヶ
i 六角ボルト M10×50 3ヶ	j 六角ボルト M10×55 2ヶ	k 六角ボルト M10×95 1ヶ	l キャップボルト M6×25 4ヶ
m キャップボルト M6×30 5ヶ	n キャップボルト M8×35 1ヶ	o キャップボルト M6×50 2ヶ	p キャップボルト M6×60 1ヶ
q キャップボルト M8×25 2ヶ	r キャップボルト M8×75 2ヶ	s キャップボルト M10×30 2ヶ	t フランジナット M8 1ヶ
u フランジナット M10 2ヶ	v ワッシャー-M6 2ヶ	w ワッシャー-M8 3ヶ	x ワッシャー-M10 9ヶ

(4) 純正部品取り外し作業

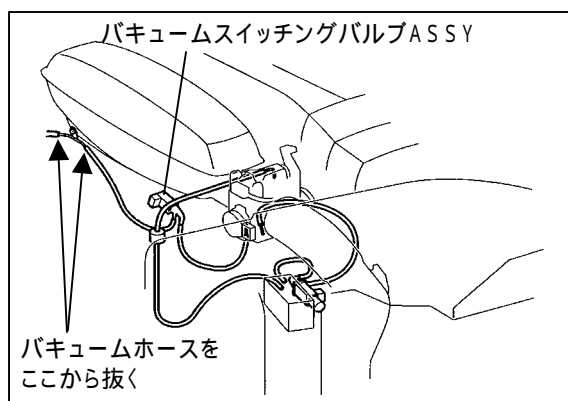


- (1) バッテリーのマイナス端子を取り外す。
- (2) エアクリーナーインレットを取り外す。
- (3) 冷却水を抜き取る。
- (4) ベンチレーションホースをエアクリーナーホースから取り外す。
- (5) スロットルボディ上部のニップル部分から、パキュームホースを抜く。
- (6) エアフロセンサ用コネクタを抜き、エアクリーナーASSYを取り外す。
- (7) エアクリーナーASSYより、エアフロセンサを取り外す。
- (8) エアクリーナーホースを取り外す。
- (9) アクセルコントロールケーブルASSYを取り外す。
- (10) アクセルポジションセンサ用コネクタ、EFIスロットルポジションセンサ用コネクタ、スロットルコントロールモータ用コネクタを抜く。
- (11) ウォーターバイパスホース(2ヶ)とスロットルボディ下部のパキュームホースを抜く。
- (12) 純正ナット(3ヶ)を取り外し、スロットルボディおよびスロットルボディガasketを取り外す。



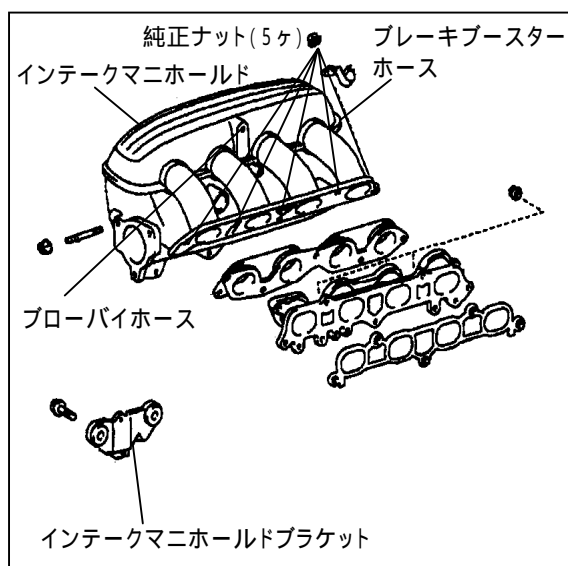
(13) レベルゲージを抜き取り、レベルゲージガイドを取り付けている純正ボルト(2ヶ)の内、上側の1ヶを取り外す。

(14) タイミングプリーカバー下側にあるハーネスカバーの純正ボルト(左右1ヶずつ)を取り外す。

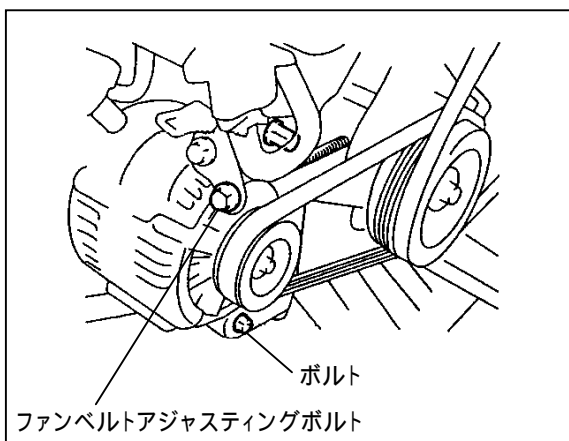


(15) バキュームホースを、図の位置から抜く。

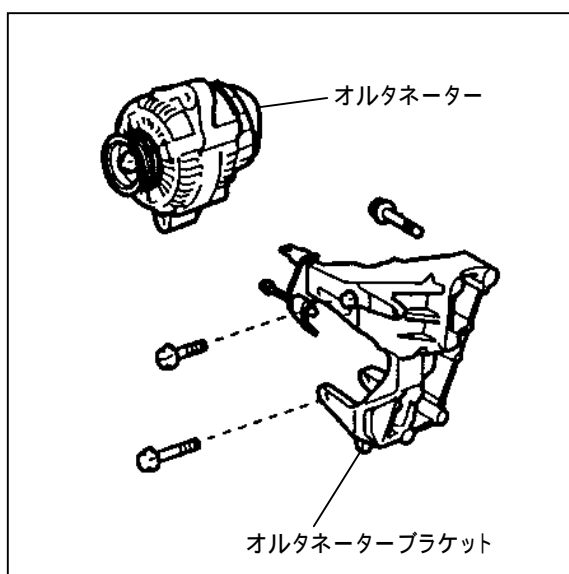
(16) バキュームスイッチングバルブASSYを取り外す。



(17) ブローバイホースとブレーキブースターホースを取り外し、インテークマニホールドブラケットを取り外す。そして、純正ナット(5ヶ)を取り外し、インテークマニホールドを取り外す。



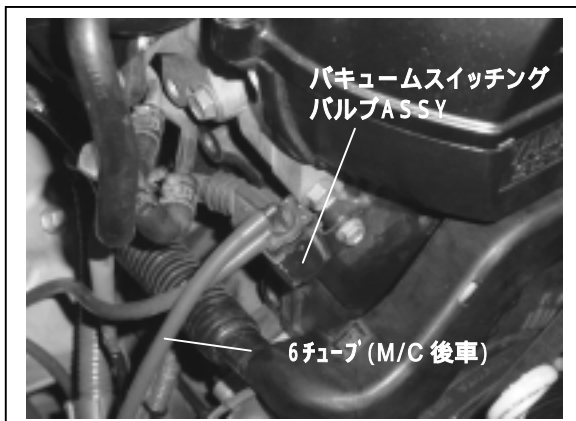
- (18) オルタネーターのカプラー・端子類を取り外す。そして、ファンベルトアジャスティングボルトとオルタネーター下側のボルトを取り外し、オルタネーターを取り外す。その後、オルタネーターブラケットを取り外す。



- (19) オルタネーターブラケットを取り外す。

(5)コンプレッサーキット取り付け作業

注意 締め付けトルク	M6	10.0N・m
	M8	18.5N・m
	M10	35.0N・m



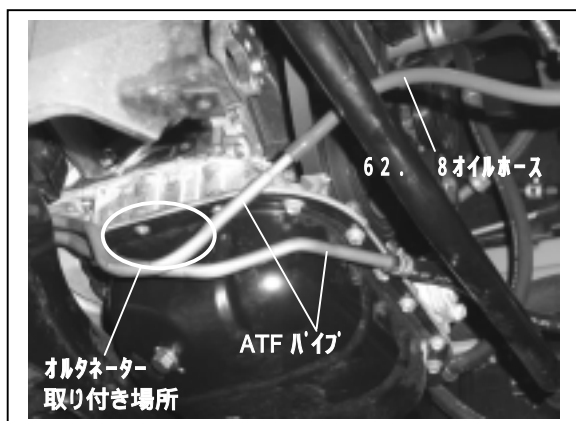
(1)取り外してあったバキュームスイッチングバルブASSYを固定する。

・M/C 前車輛

図の位置に共締めして取り付ける。

・M/C 後車輛

図の位置周辺の他部品に接触しない安全な位置に、56タイラップLを使用して、固定する。そして、図のスロットルボディに繋がるホースを、40 6シリコンチューブに付け替える。



(2)AT車のみ

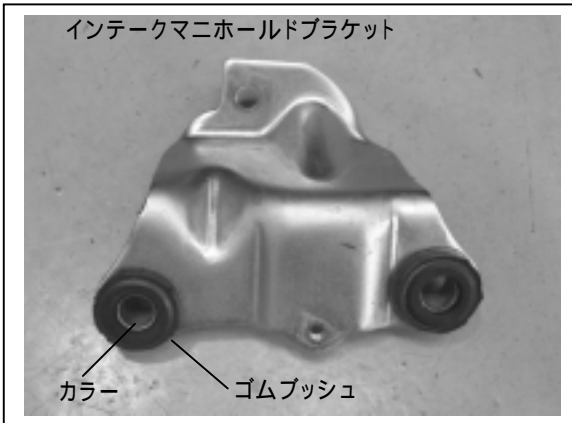
(ア)ATFパイプを、図のように曲げ加工して、オルタネーターの取り付け場所を、確保する。

加工の際は、**パイプの折れ・潰れ等に、十分注意**して下さい。

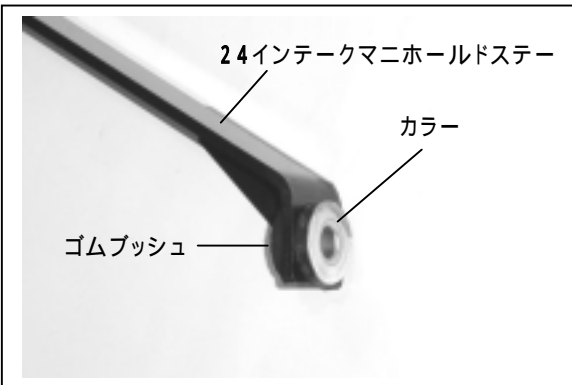
パイプやオイルホースが、フロントスタビライザーやプーリー・Vベルト等の可動部に接触しない位置に、曲げ加工して下さい。

(イ)オイルホースが短い場合は、62 8オイルホースに、付け替える。

(ウ)63コルゲートチューブ太を使用して、パイプおよびオイルホースを被覆する。



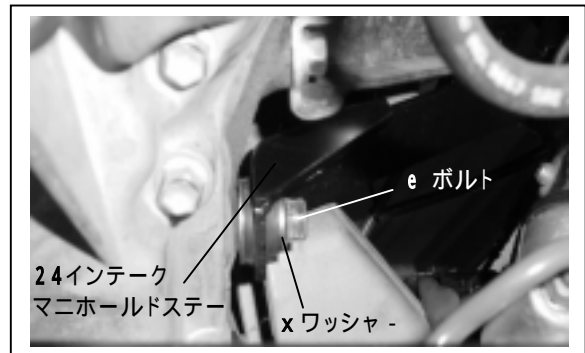
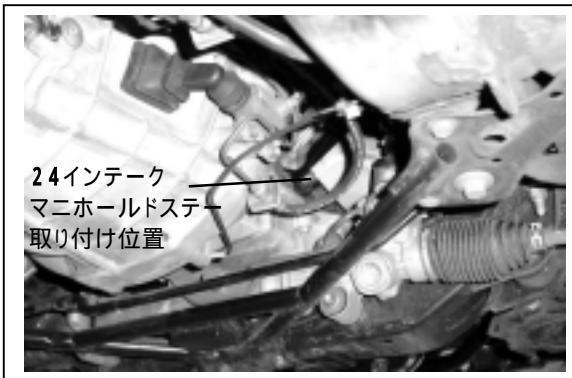
- (3) 純正インテークマニホールドブラケットのゴムブッシュおよびカラーを取り外す。(1ヶずつ)



- (4) 取外したゴムブッシュおよびカラーを、24インテークマニホールドステーに取り付ける。

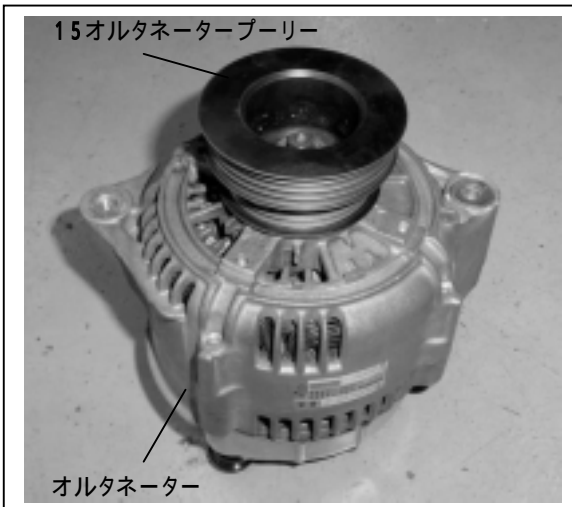
- (5) e ボルト(1ヶ)とx ワッシャー(1ヶ)を使用して、図の位置に24インテークマニホールドステーを仮止めする。
AT車は、ATFパイプステーと共締めします。

MT車



AT車





- (6) オルタネーターの純正センターナットを緩め、純正プーリーを取り外し、15オルタネータープーリーに付け替える。

締め付けトルク

$$= 100.0 \text{ N}\cdot\text{m} (1020 \text{ kgf}\cdot\text{cm})$$

注意 ネジ部にネジロック剤を塗布して下さい。

- (7) オルタネーターに、19六角カラーとk ボルト(1ヶ)、x ワッシャー(1ヶ)を使用して、18オルタネーターブラケットを仮止めする。

- (8) オイルパンを止めている純正ボルト(2ヶ)を取り外し、18オルタネーターブラケットを、23オルタネーターブラケットカラー(2ヶ)を挟んで、m ボルト(2ヶ)とv ワッシャー(2ヶ)で取り付ける。

AT車は、ATFパイプと接触しないか、確認してください。接触する場合は、(2)をやり直してください。

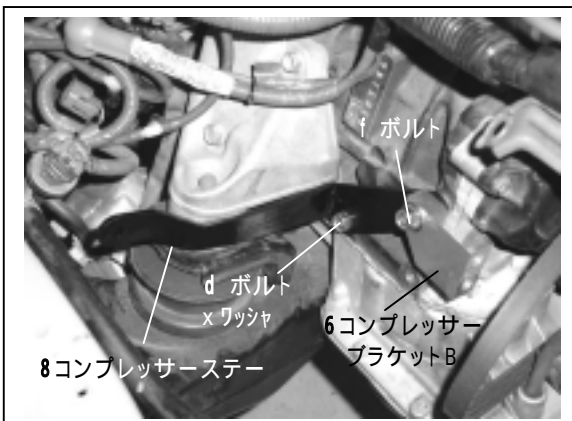
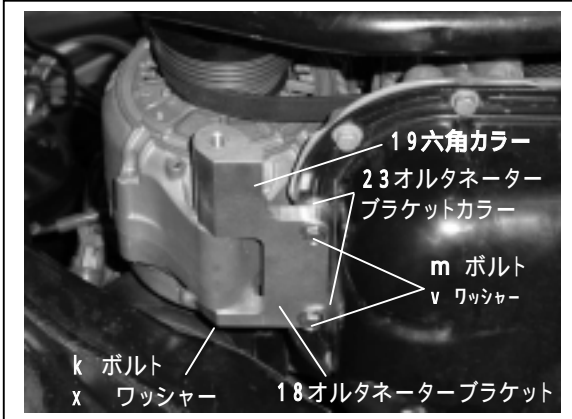
- (9) オルタネーターのカプラー・端子類を、元のように取り付ける。

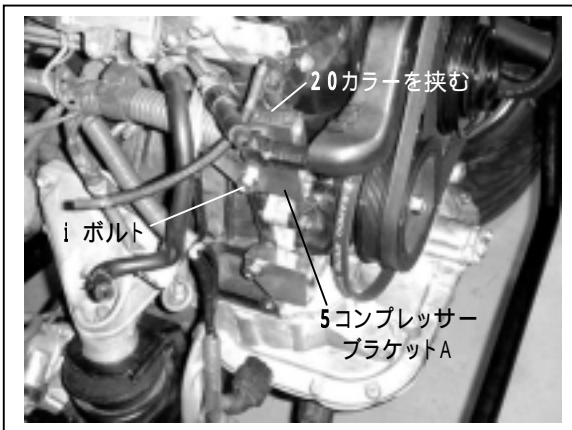
カプラー・端子類が、オルタネーターに届かない場合は、カプラーの配線をまとめているテープを少しカットして、配線に余裕を持たせて下さい。

- (10) 8コンプレッサーステーと6コンプレッサーブラケットBを、dボルト(1ヶ)、x ワッシャー(1ヶ)、f ボルト(1ヶ)で仮止めする。

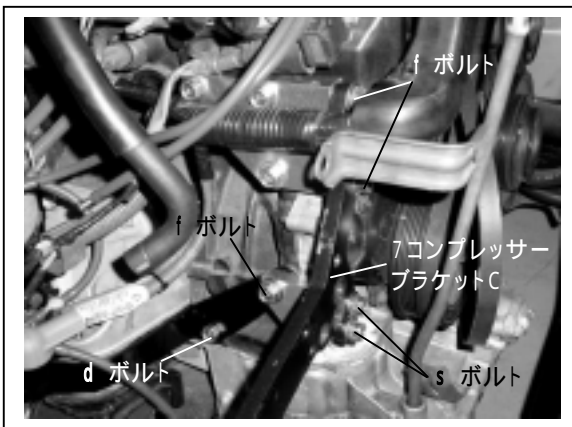
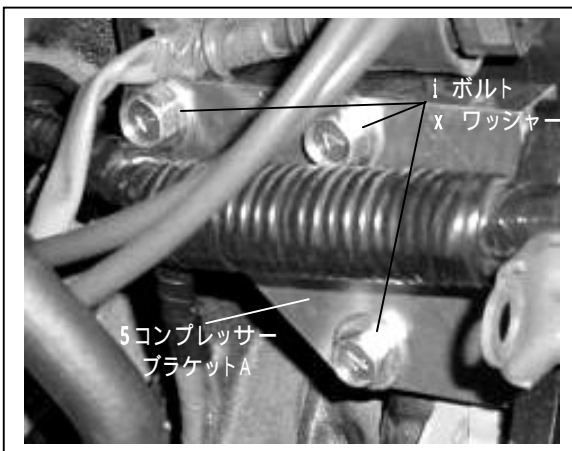
f ボルトは、8コンプレッサーステーと6コンプレッサーブラケットBを共締めします。

注意 オルタネーター + B端子部分が、他部品に接触すると、オルタネーターの破損の原因となります。8コンプレッサーステーとの隙間があまりない場合は、コルゲートチューブ等を使用して、+ B端子部分が接触しないように被覆して下さい。

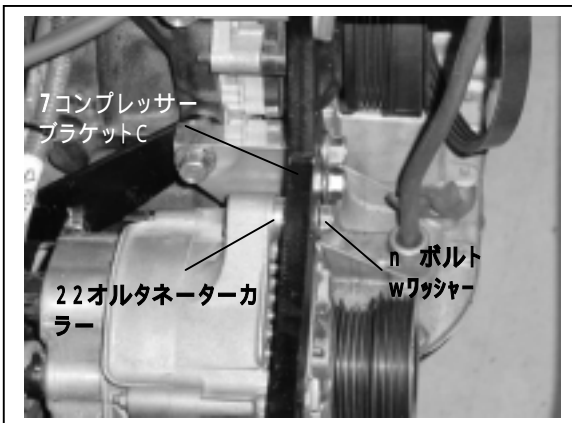




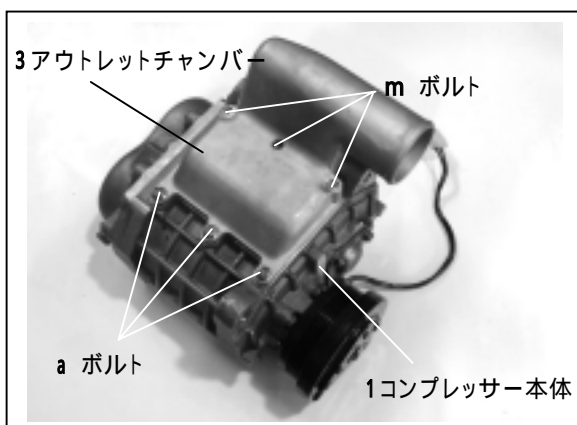
(11) 5コンプレッサーブラケットAとエンジンの間に20コンプレッサーブラケットカラー(3ヶ)を挟み、i ボルト(3ヶ)とX ワッシャー(3ヶ)で、5コンプレッサーブラケットAを取り付ける。



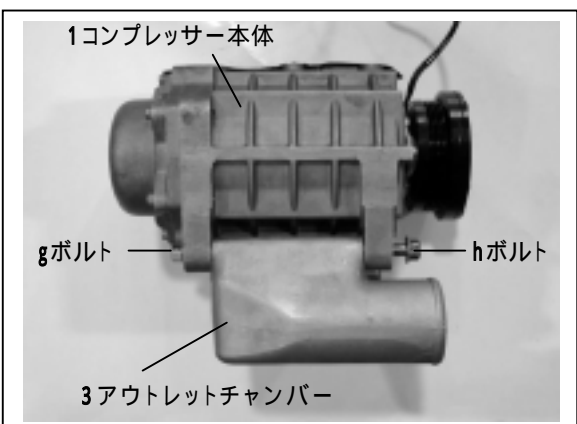
(12) 7コンプレッサーブラケットCを、f ボルト(2ヶ)とs ボルト(2ヶ)で取り付ける。その後、(10)で仮止めだった、dボルトとf ボルトを本締めする。



(13) 7コンプレッサーブラケットCとオルタネーターの間に22オルタネーターカラー(1ヶ)を挟み、n ボルト(1ヶ)とwワッシャー(1ヶ)で取り付ける。その後、(7)で仮止めだったk ボルトを本締めする。



(14) 1コンプレッサー本体と3アウトレットチャンバーの間に4ガスケット(1ヶ)を挟んで、a ボルト(3ヶ)と m ボルト(3ヶ)を使用して仮付けする。

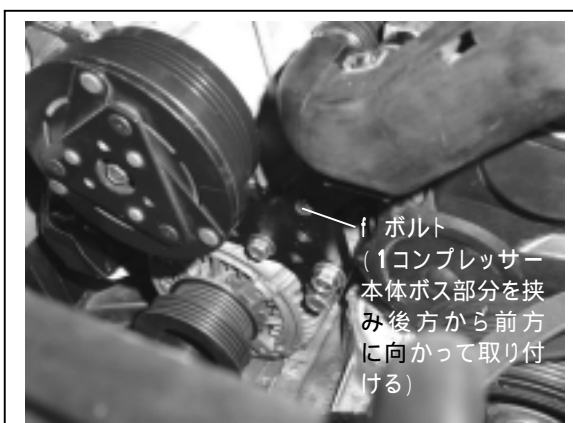
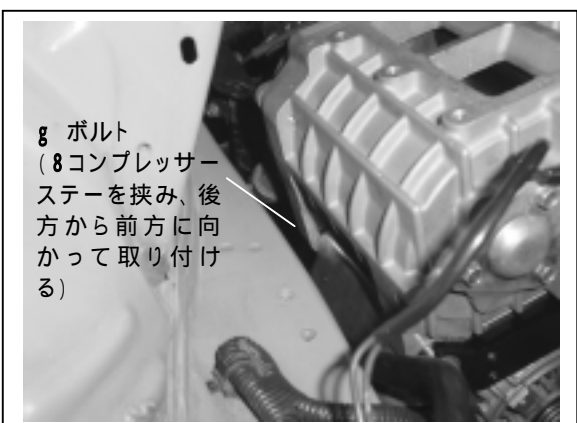


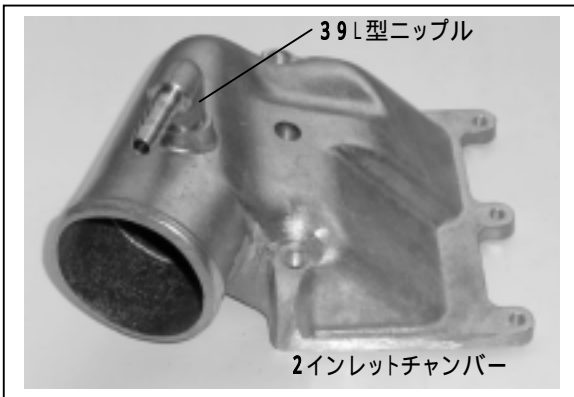
(15) g ボルト(1ヶ)とh ボルト(1ヶ)を使用し、3アウトレットチャンバーの位置だしを行い、a ボルト、m ボルトを本締めする。

(16) 位置だしの為に取り付けた、g ボルト(1ヶ)とh ボルト(1ヶ)を取り外す。

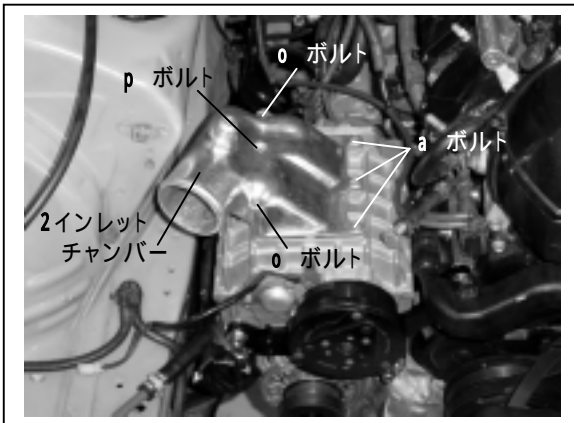


(17) 組み上がった1コンプレッサー本体と3アウトレットチャンバーを、h ボルト(1ヶ)とx ワッシャー(1ヶ)および g ボルト(1ヶ)とf ボルト(1ヶ)を使用し取り付ける。h ボルトとf ボルト部分は7コンプレッサーブラケットCと、g ボルト部分は8コンプレッサーステーと、取り付けます。図のホースが3チャンバーと接触する場合は、63コルゲートチューブ太で被覆してください。

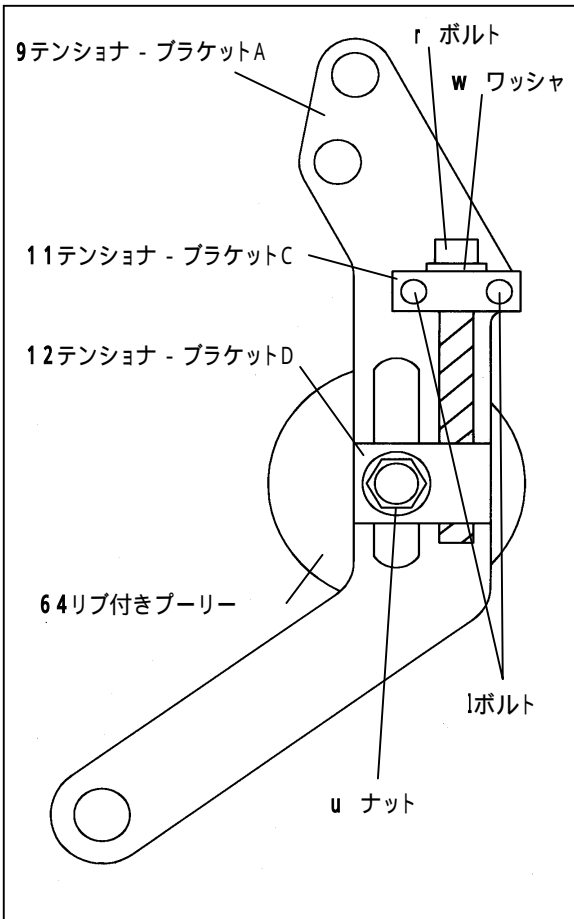




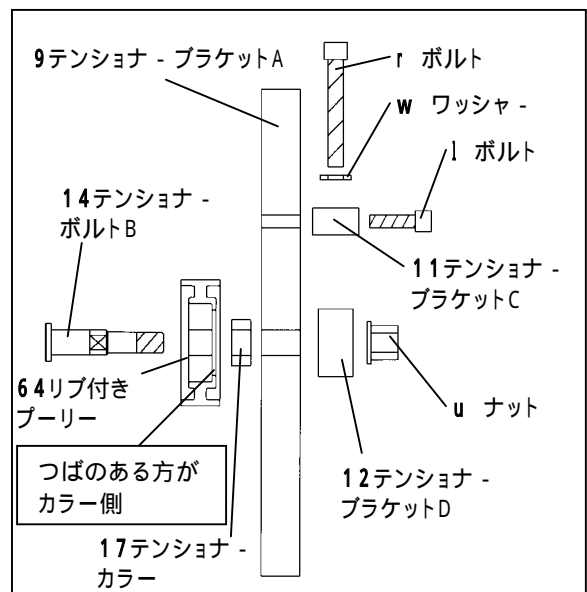
(18) 2インレットチャンバーに39L型ニップルを取り付ける。
シールテープもしくはシール剤を使用して取り付けして下さい。

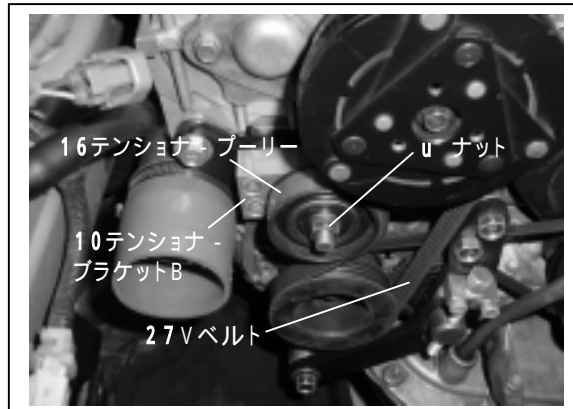
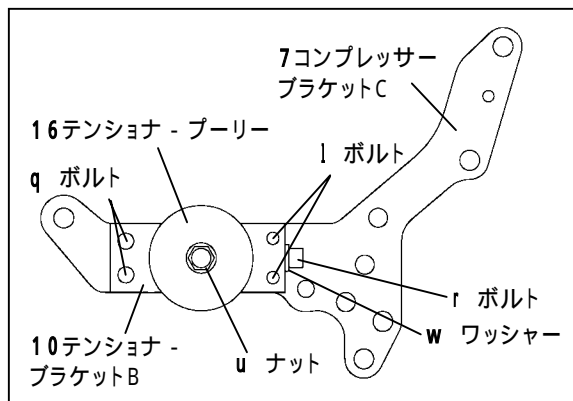
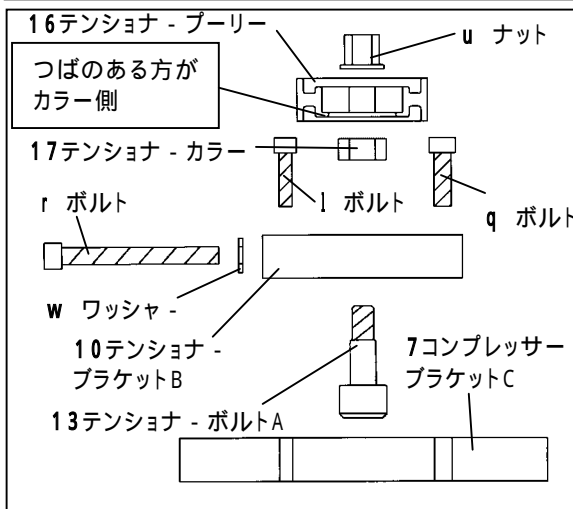
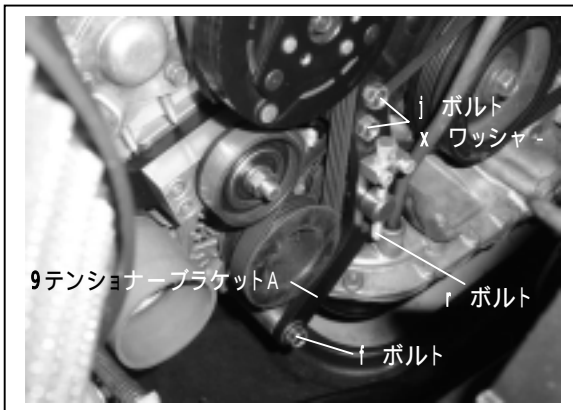


(19) 4ガスケット(1ヶ)を挟んで、a ボルト(3ヶ)とo ボルト(2ヶ)とp ボルト(1ヶ)を使用して、2インレットチャンバーを、1コンプレッサー本体に取り付ける。



(20) 図を参考に、9テンショナーブラケットAに、11テンショナーブラケットC、12テンショナーブラケットD、64リブ付きプーリー(1ヶ)、17テンショナーカラー(1ヶ)、14テンショナーボルトB、r ボルト(1ヶ)とw ワッシャー(1ヶ)、l ボルト(2ヶ)、u ナット(1ヶ)を組み付ける。
l ボルト(2ヶ)以外は、仮止めです。
64プーリーは、つばのある方を17カラー側にして下さい。





(21) (20)で組んだ9テンショナーブラケットAを、21テンショナーブラケットカラー(2ヶ)、j ボルト(2ヶ)とx ワッシャー(2ヶ)、f ボルト(1ヶ)を使用して取り付け。

21テンショナーブラケットカラー(2ヶ)は、7コンプレッサーブラケットCと9テンショナーブラケットAの間に取り付きます。

(22) 純正オルタネーターVベルトを、64リブ付きプーリーを介して、15オルタネータープーリーの内側(オルタネーター側)の溝に掛け、r ボルトでVベルトの張りを調節し、u ナットを締めて、64リブ付きプーリーを固定する。

(23) 図を参考にして、10テンショナーブラケットBに、16テンショナープーリー(1ヶ)、17テンショナーカラー(1ヶ)、13テンショナーボルトA、r ボルト(1ヶ)とw ワッシャー(1ヶ)、u ナット(1ヶ)を取り付ける。それを、7コンプレッサーブラケットCに、l ボルト(2ヶ)、q ボルト(2ヶ)で取り付ける。

16プーリーは、つばのある方を17カラー側にして下さい。

(24) 図のように、27Vベルトを、16テンショナープーリーを介して、1コンプレッサー本体のプーリーと15オルタネータープーリー(外側の溝)に掛ける。

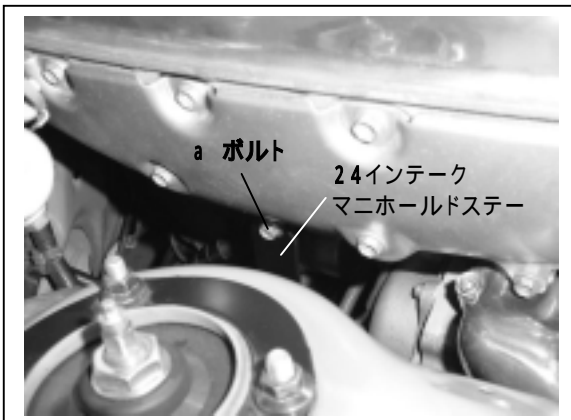
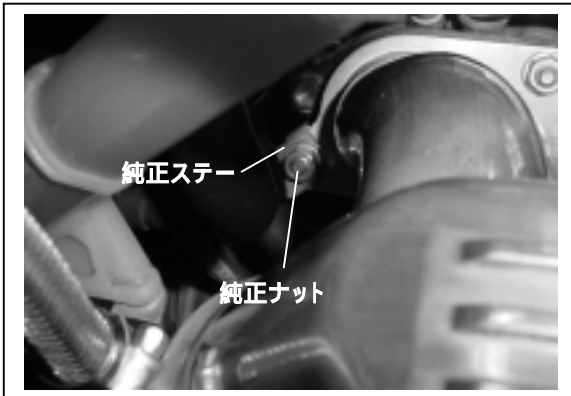
(25) 10テンショナーブラケットBのr ボルトで27Vベルトの張りを調節し、u ナットを締めて16テンショナープーリーを固定する。

(22)(25)のVベルトたわみ量(mm)

	新品取り付け時	点検時
たわみ量	7~8.5	11~13



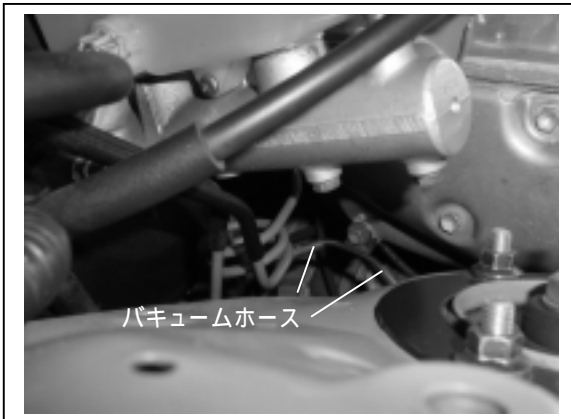
- (26) 純正インテークマニホールドを、純正ナット(5ヶ)を使用して取り付け、ブローバイホースを元のように取り付ける。
元のように純正のステーを共締めして下さい。



- (27) 24インテークマニホールドステーの上側を、a ボルト(1ヶ)で取り付ける。その後、(5)で仮止めだった24インテークマニホールドステー下側のe ボルトを本締める。
a ボルトが取り付く部分は、純正ボルトが留まっていますので、取り外して下さい。

注意

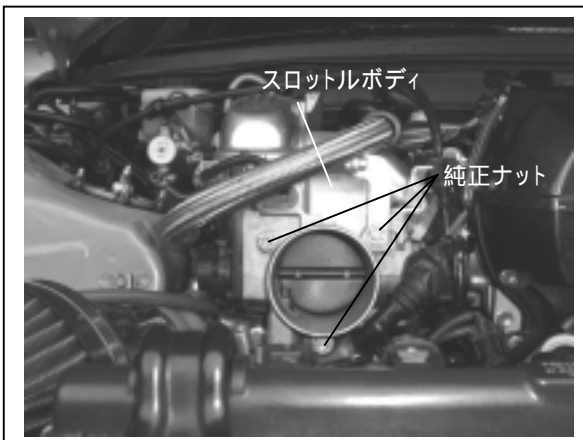
AT車は、図の位置にボルト穴がありませんので、M6ボルト穴をあけてください。ただし、**貫通する恐れがありますので、あけ過ぎに十分ご注意ください。**



- (28) 図の位置のバキュームホースを、元のように取り付ける。



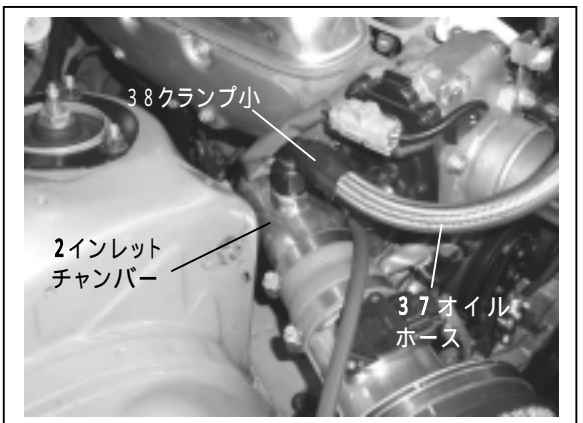
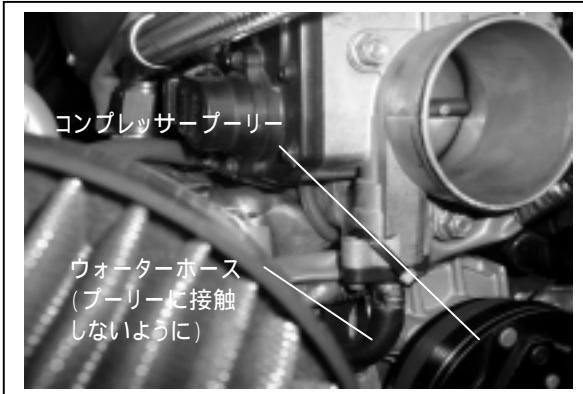
(29) ブレーキブースターホースを元のように取り付ける。



(30) スロットルボディおよびスロットルボディガasketを、純正ナット(3ヶ)を使用して取り付ける。カプラー類および配管類を元のように取り付けて下さい。ただし、スロットルボディ上部のニップル部分は、そのままにしておいて下さい。

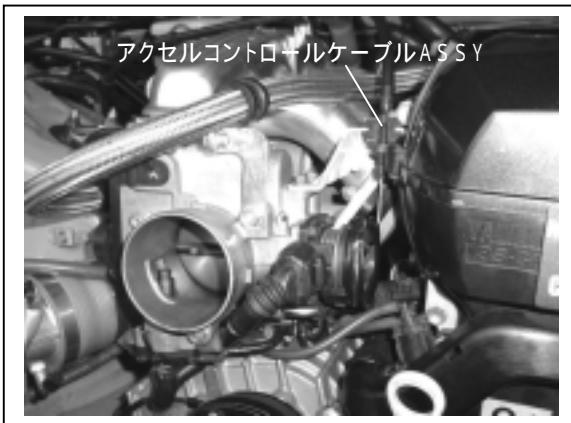
ウォーターバイパスホースはコンプレッサーのプーリーに接触しないよう、純正とはレイアウトを変更し取り付けて下さい。また、56タイラップLを使用し、プーリー側に寄らないよう固定して下さい。

M/C 後車輛は、スロットルボディ下部のバキュームホースニップルには、(1)で交換した40 6チューブが取り付けます。

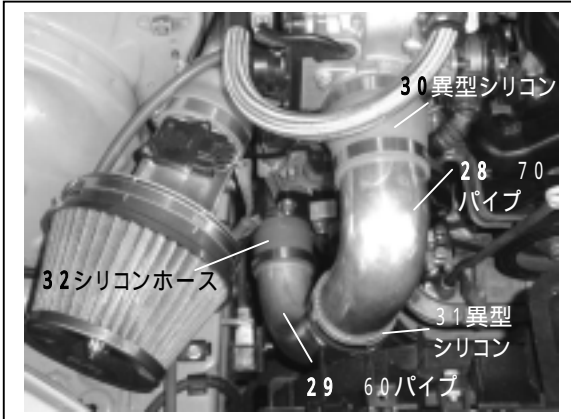


(31) ベンチレーションホースを、36ニップルと37 9オイルホースで延長し、2インレットチャンバーの39L型ニップル部に取り付ける。そして、37 9オイルホースの両端を、抜けないように、38クランプ小(2ヶ)で締める。

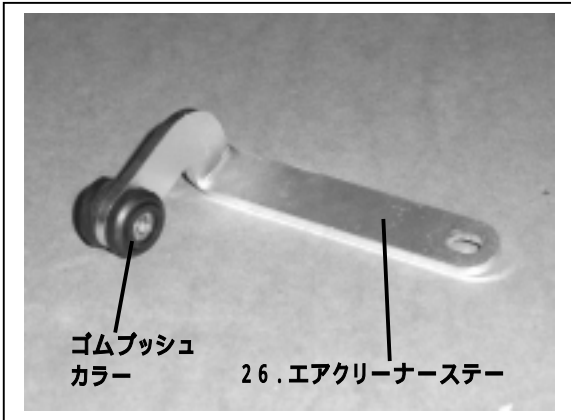
37 9オイルホースは、適当な長さにカットして、使用して下さい。



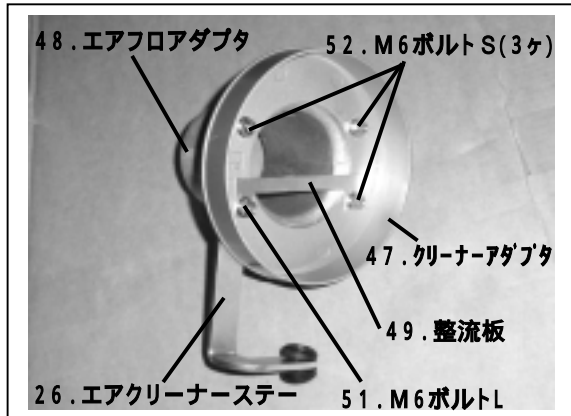
(32) アクセルコントロールケーブルASSYを、元のように取り付ける。



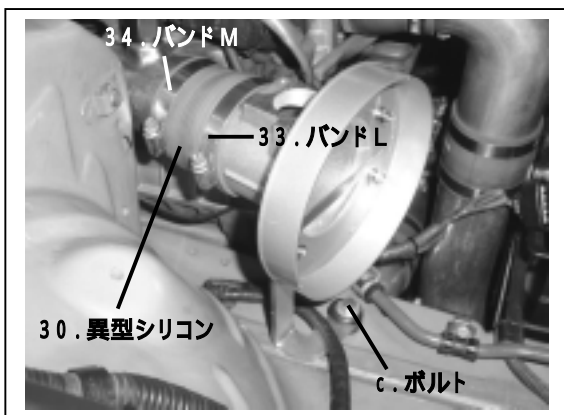
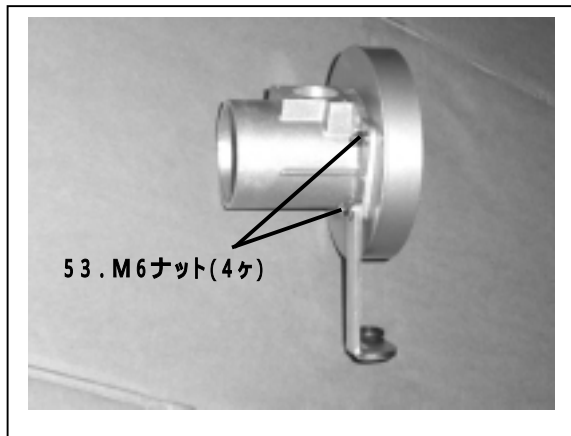
(33) 28 70パイプ、29 60パイプ、30 異型シリコン(1ヶ)、31 異型シリコン(1ヶ)、32 シリコンホース(1ヶ)、33 ホースバンドL(1ヶ)、34 ホースバンドM(2ヶ)、35 ホースバンドS(3ヶ)を使用して、3 アウトレットチャンバーとスロットルボディ間を配管する。



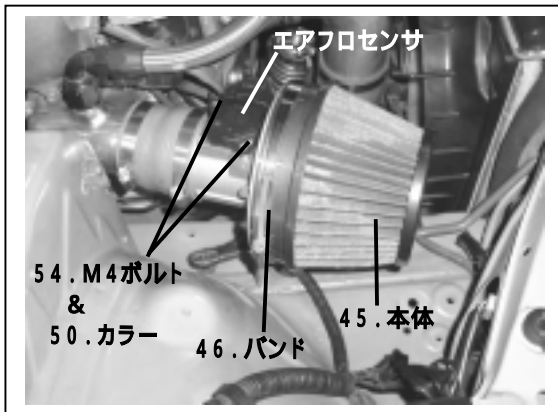
- (34) 純正エアクリーナーボックスASSYから、ゴムブッシュおよびカラーを取り外し、26エアクリーナーステーに取り付ける。
取り付け時に、ゴムブッシュを損傷しないように注意してください。



- (35) 51クリーナー用M6ボルトL(1ヶ)、52クリーナー用M6ボルトS(3ヶ)、53クリーナー用M6ナット(4ヶ)を使用して、47クリーナーアダプタ、48エアフロアダプタ、26エアクリーナーステー、49整流板を、図のように組み立てる。
51M6ボルトL(1ヶ)と52M6ボルトS(3ヶ)は、裏側から53M6ナット(4ヶ)で留めます。
51M6ボルトLは、仮止めです。



- (36) (35)で組み立てたものを、30異型シリコン(1ヶ)、33ホースバンドL(1ヶ)、34ホースバンドM(1ヶ)、c.ボルト(1ヶ)を使用して、車輻に取り付ける。
仮止めだった51M6ボルトLを本締めして下さい。



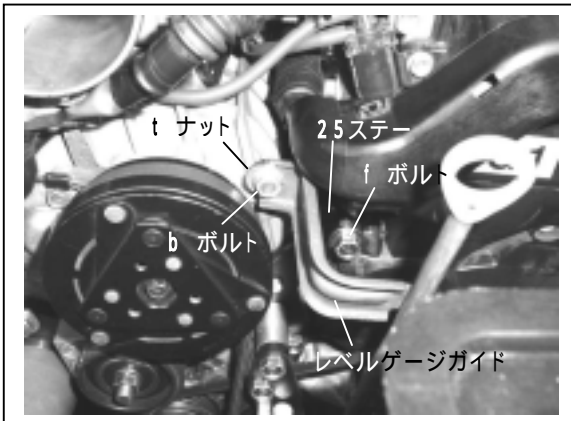
(37) 45クリーナー本体を46クリーナー本体用バンドで取り付ける。

(38) 50エアフロカラー(2ヶ)、54クリーナー用M4ボルト(2ヶ)を使用して、エアフロセンサを取り付ける。

50エアフロカラーは、エアフロセンサと48エアフロアダプタの間に挟みま

す。
エアフロセンサの向きに注意して下さい。

(39) エアフロセンサコネクタを元通り取り付ける。

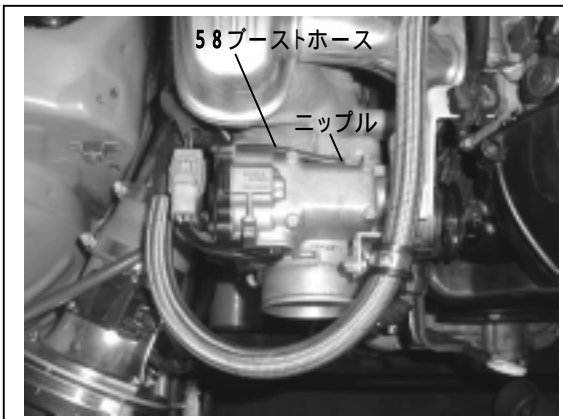


(40) 5コンプレッサーブラケットAと7コンプレッサーブラケットCを取り付けているf ボルト(2ヶ)の内、下側の1ヶを取り外す。

(41) 25レベルゲージガイドステーを、レベルゲージガイドにb ボルト(1ヶ)とt ナット(1ヶ)で取り付ける。その後、取り外したf ボルトで、7コンプレッサーブラケットCに取り付ける。



(42) 取り外していたハーネスカバーを、元のように純正ボルト(2ヶ)で取り付ける。そして、レベルゲージをレベルゲージガイドに取り付ける。



(43) スロットルボディ上部のニップル部分に、65 3 ゴムキャップを取り付ける。

付属のタイラップで抜け止めをしてください。

ブースト計を取り付ける際は、この位置から取り出してください。

(44) 電子部品配線作業



純正エンジンコンピューターボックスのカバーを取り外す。

58フューエルコントローラー、59回転信号アダプターを次ページ配線図に従って接続する。
配線の断線・接続不良には、十分注意して作業してください。最悪の場合、エンジン破損の原因となります。

41クラッチ用スイッチ、42ハーネスを次ページ配線図に従って接続する。

配線の断線・接続不良には、十分注意して作業してください。最悪の場合、エンジン破損の原因となります。

バッテリーに接続する線とボディアースする線とを、間違えないように注意して下さい。

クラッチ用スイッチの緑線はAT車のみになります。

58フューエルコントローラー、41クラッチ用スイッチを純正コンピューターボックス内に収納する。

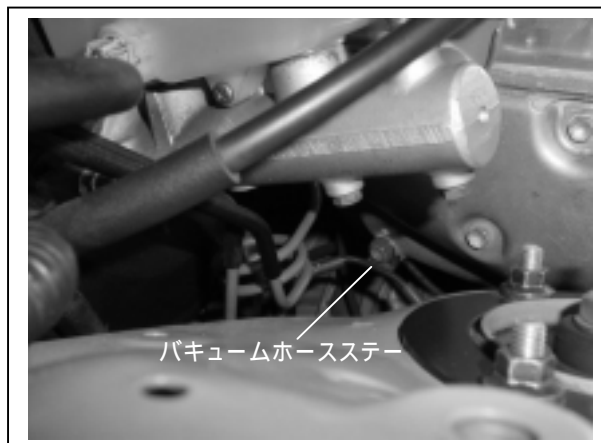
接続した配線類を、57タイラップS、55コルゲートチューブを使用して、固定する。

高熱部や可動部に接触しない安全な位置に固定してください。

エンジンコントロールコンピューターカバーを元のように取り付ける。

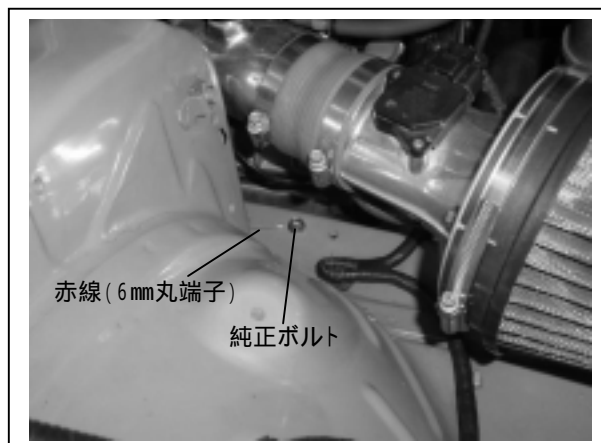
42ハーネスのリレー本体取り付け位置

インテークマニホールドのバキュームホースステー取り付け部分に共締めする。

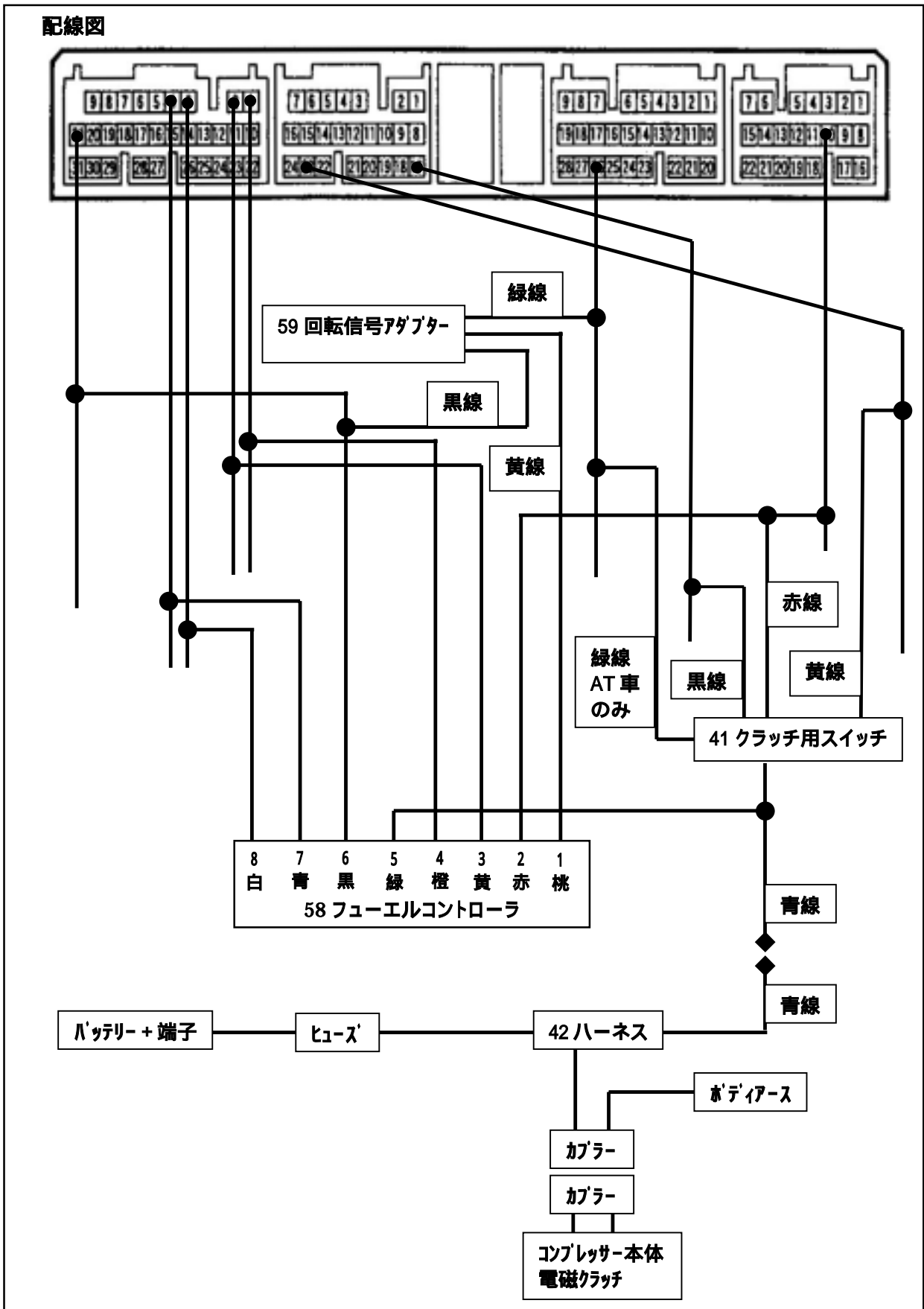


42ハーネスのボディアース位置

a.ボディアースボルト(1ヶ)を使用して、カプラーから出ている赤線(6mm丸端子側)を図の位置に取り付ける。



配線図

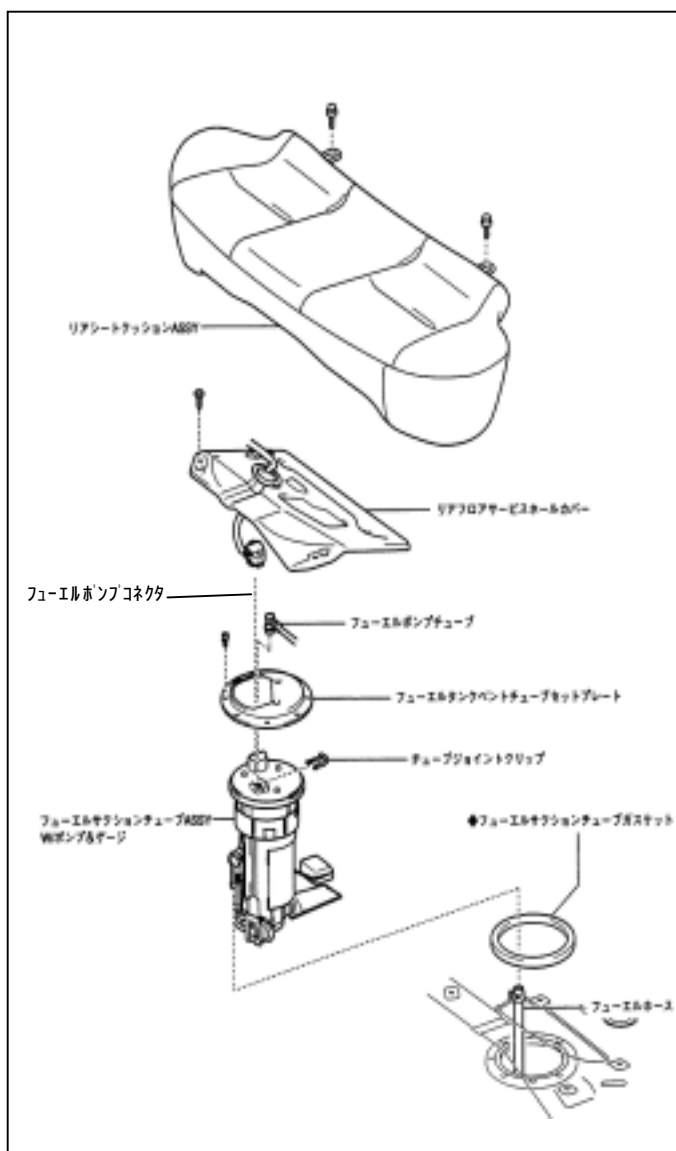


(45)冷却水注入

- (イ) 冷却水をラジエーター注水口よりあふれるまで注入する。
- (ロ) ラジエーターキャップを閉める。
- (ハ) ラジエーターリザーバータンクに冷却水を上限まで注入する。
- (ニ) エンジンをサーモスタットが開弁するまで暖機する。
- (ホ) エンジンを止め、冷却水が冷えるまで待ち、ラジエーターキャップを外して水位を確認する。
- (ヘ) 水位が下がっている場合は、上記(イ)より繰り返す。
- (ト) 水位が下がらなくなったら、ラジエーターリザーバータンクに冷却水を調整する。

(46)バッテリーのマイナス端子を取り付ける。

(47)レギュレーター交換作業



リアシートクッションASSYを取外す。
フロアサービスホールカバーを取外す。
フューエルポンプコネクタを外す。

燃料流出防止作業

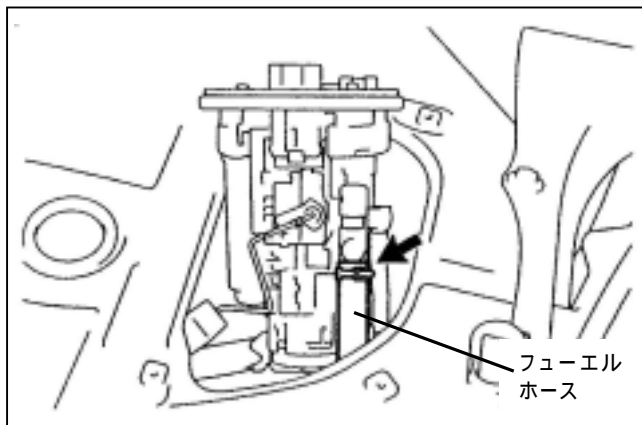
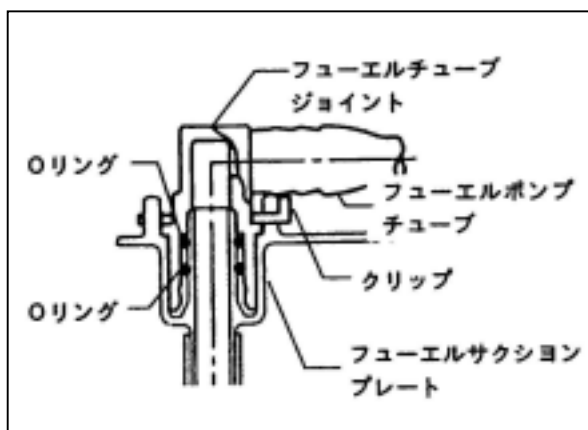
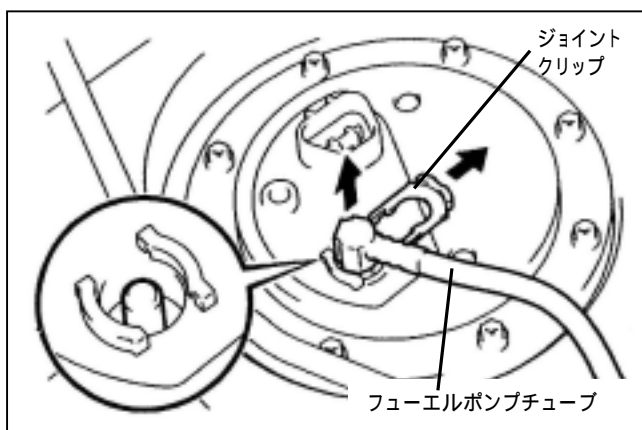
- (イ) エンジンを始動し自然に停止した後イグニッションスイッチをOFFにする。
- (ロ) バッテリーの - 端子を取外す。
フューエルポンプチューブ取り外し
- (a) 作業前にクリップ部に付着した泥などの異物を清掃する。
- (b) ジョイントクリップを取り外し、上方へ引き上げフューエルポンプチューブを取外す。

注意

- ・クイックコネクターはOリングによりナイロンチューブとサクシオンプレートのプラグ部をシールしているため、接着部の傷つき、異物の付着に対し十分注意して作業をおこなう。
- ・脱着作業は必ず手で行い、工具などを使用しない。
- ・ナイロンチューブを無理に曲げたり折ったり回転させたりしない。
- ・取り外し後、接続部をビニール袋で保護する。
ボルト8本をはずし、フューエルタンクベントチューブセットプレートを取外す。
フューエルホースを外し、フューエルサクシオンチューブASSY / ポンプ&ゲージおよびガasketを取外す。

注意

- ・フューエルポンプフィルターを傷つけない。
- ・センサーゲージアームを曲げないように気をつける。



フューエルサクションプレート取り外し
 (a) マイナスドライバーを使用して、フューエルサクションプレートのツメのかん合を外す。

(b) フューエルポンプハーネスを外し、フューエルサクションプレートを取外す。

フューエルサクションプレート No. 2 を取外す。

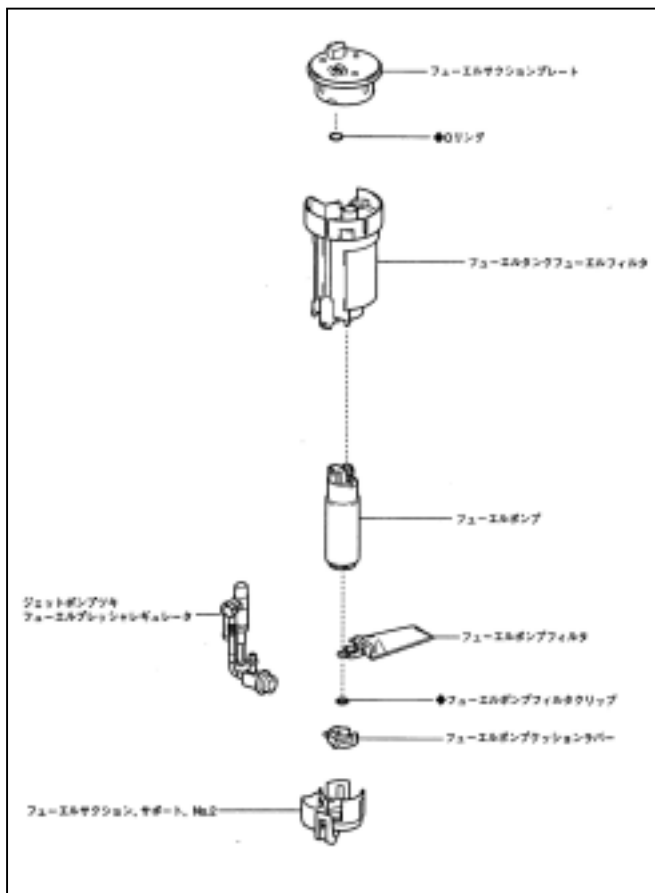
フューエルポンプクッションラバーを取外す。

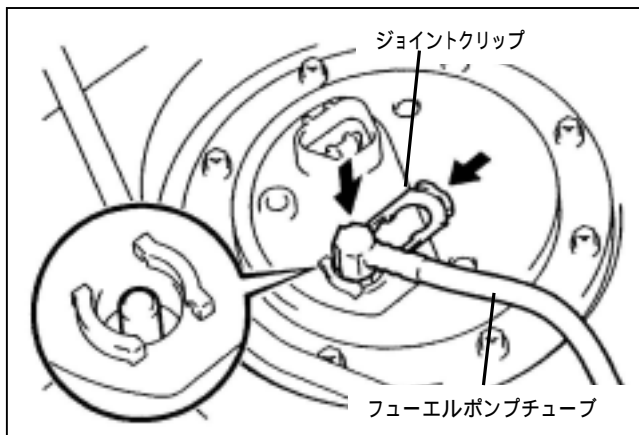
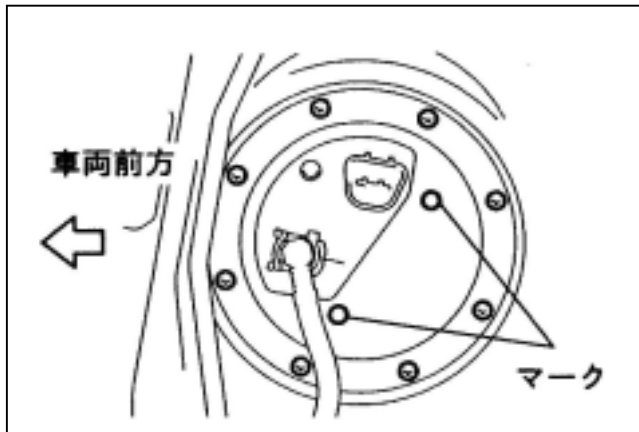
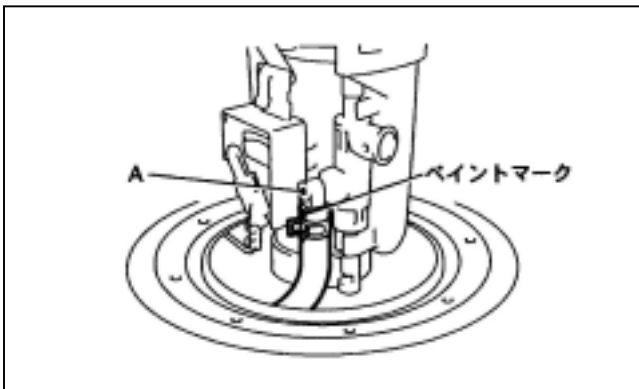
ジェットポンプレギュレーター ASSY を取外す。

43レギュレーターに付け替える。

フューエルポンプクッションラバーおよびフューエルサクションサポート No. 2 を元通り取り付け。

フューエルポンプハーネスおよびフューエルサクションプレートを元通り取り付け。





フューエルサクシジョンチューブASSY
W / ポンプ&ゲージ取り付け

- (a) 図のA部にフューエルホースのペイントマークを合わせるように接続し、付属のタイラップで抜け止めをする。
- (b) フューエルサクシジョンチューブASSY W / ポンプ&ゲージとガスケットを取り付ける。

注意

センダーゲージアームがフューエルタンク内のフューエルホース等に干渉しないよう注意して取り付ける。干渉があると、フューエルメーターが正常に作動しなくなります。

フューエルサクシジョンチューブASSY W / ポンプ&ゲージおよびフューエルタンクベントチューブセットプレートのマークを合わせ、ボルト8本で取り付ける。

トルク: $T = 4.0 \text{ N} \cdot \text{m} (41 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$

フューエルポンプチューブをプラグに差し込みチューブジョイントクリップを取り付ける。

注意

- ・接続部に傷および異物の付着がないことを確認する。
- ・チューブジョイントクリップが確実に取り付けられている事を確認する。
- ・チューブジョイントクリップがコネクタのツバの上にあることを確認する。
- ・チューブジョイントクリップ取り付け後、フューエルポンプチューブASSYが抜けないことを確認する。

フューエルポンプコネクタおよびリアフロアサービスホールカバーを元通り取り付け。

リアシートクッションを取り付ける。

- (48) バッテリーマイナス端子を取り付ける。
- (49) イグニッションキーをONにし、アクセルペダルを踏み込み、踏み込み途中でコンプレッサー本体の電磁クラッチがONになることを確認する。
- (50) エンジンを始動しエンジンの回転数が700rpm前後で安定するまで、アイドルリング状態で放置する。

エンジン始動後はアイドルリング回転数が低い場合や高い場合があり、しばらくの間電磁スロットルがカチカチと作動し、アイドルリング回転数が安定しなかったり、息つきする場合があります。

エンジン回転数が高い場合は電磁スロットルが作動しなくなり、アイドルリング回転数が700rpm前後で安定するまでそのまま放置してください。

エンジン回転数が低くアイドルリング状態で放置できない場合は、アクセルペダルを少し踏み込み、しばらくの間1500rpm前後で安定させてください。

アイドルリング回転数が上昇してきたら電磁スロットルが作動しなくなるまでアイドルリング状態で放置してください。

以上で本キットの取り付けは終了です。

(6) 取り付け後の確認

エンジン始動前の確認

- ・ パイプ、ホース等配管及び配線に間違いがないか確認してください。
- ・ ボルト、ナット類の締め忘れがないか確認してください。
- ・ ガソリンはハイオクガソリンが入っているか確認してください。

エンジン始動後の確認

- ・ コンプレッサーから異音等がないか確認してください。
- ・ 軽く空ぶかしをおこない、Vベルト、コンプレッサー等に異常がないか確認してください。(ベルトのスリップ、歯とび)
- ・ 冷却水、燃料、オイル等の漏れがないか確認してください。

(7) メンテナンス

快適に運転していただく為、お車を運転する前には必ず日常点検を行ってください。尚、本キットを取り付けた後に維持、管理する項目については必ず実施してください。

コンプレッサーキット装着時の維持、管理項目

- ・ エンジンオイルの定期的な交換(推奨 5000Km以内で交換)
 - ・ エンジンオイルフィルターの定期的な交換(推奨 10000Km以内で交換)
 - ・ ハイオクガソリンの使用(レギュラーガソリンは絶対に使用しないでください)
- キットには専用ハイオクステッカーを付属しています。給油口内側に貼り付ける事をお勧めします。
- ・ SUS POWER LMエアクリーナー用フィルターの定期的な交換
エアフィルターが汚れている状態では本来の性能を発揮できないばかりか、エンジン不調の原因になる場合があります。

Vベルトのメンテナンスについて

本コンプレッサーキットでは、Vベルトを利用しコンプレッサーを回転させ、過給を発生させています。定期的にVベルトの点検・張りの調整を行ってください。

- ・ Vベルトの点検・張りの調整 推奨5000kmで点検・調整
Vベルトは、新品初期に一番伸びる特徴があります。新品Vベルトを取り付けた際は500km以内で、張りを調整して下さい。
- ・ Vベルトの交換 Vベルトの交換サイクルは車両の状態・運転の状況により異なります。Vベルトにヒビ、亀裂、歯とび等の劣化が確認された場合には交換をお勧めします。

Vベルトの点検・張りの調整を行わない場合、Vベルトがスリップしてしまう事があります。Vベルトがスリップしている状態ではコンプレッサー本来の性能を発揮できない場合があります。

クランクプリー オルタネーター間のVベルトは純正品の再使用となります。キット取り付け時に純正Vベルトが劣化している場合は新品のベルトへの交換をお勧めします。純正Vベルトが劣化している状態では、コンプレッサー本来の性能を発揮できない場合があります。

(8) 推奨パーツ

- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B - 6 コードNo14437
- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B - 8 コードNo14438
- ・ Vベルト(4PK665) コードNo10109 - 022
- ・ SUS POWER LM交換用フィルター ブルー コードNo56008
レッド コードNo56004
オレンジ コードNo56009
- ・ BLITZ COMPRESSOR SYSTEM 専用 コードNo.10108
LM INTER COOLER KIT

メーカーオプションのヘッドランプクリーナー装着車に関しては、10108 インタークーラーキット」装着は未確認です。

本キットの設定ブースト圧は、59kPa(0.6kg/cm²)～29kPa(0.3kg/cm²)で、車輛ばらつきやエンジン回転数により変動しますが、異常ではありません。

製品についてのご相談先

製品についてのお問い合わせは、お電話またはFAXにて下記宛てにお願いします。

連絡先 株式会社 ブリッツ TEL 0566 - 79 - 2200(代)
住所 愛知県安城市高棚町大道40 - 1 FAX 0566 - 79 - 2070

製造・発売元	株式会社 ブリッツ
取扱説明書番号	10159004
初版作製年月日	2004.5.1

BLATZ